

踏み跡 < My mountains >

奥高尾

陣馬山から小仏峠へ

No.003

昭和36年6月18日

高校の同じクラスの中に、じわじわと山歩きを始める者が増えてきた。

自分自身にとっても、前回の刈寄山からまだ2週間しか経っていないのに、また次の山へ行ってみたいとなった。

どんな経緯だったか覚えてはいないが、今回は石関と意気投合して陣馬山へ行ってみることにした。

登山3回目で、まだ細かなメモを残すところまでは進歩していなかった。まずはきちんと計画を立てて、計画に沿って一日を過ごして行くことで頭がいっぱいだったのかもしれない。

そんな訳で記録が残ってはいないのだが、中央線沿線の山歩きの定番「新宿発6時20分の長野行」に乗ったと記憶している。

藤野駅は山を背にして建っているので出口は南側にしかない。駅前の甲州街道に出て農協の前から駅裏の山に向かう。中央線の踏切を渡ると正面に藤野神社がある海拔 300mほどの山が立ち上がる。

くり抜かれた小さなトンネルをくぐると、佐野川に沿った狭い谷間の田舎道になる。

6月の中旬で、梅雨の中の晴天だったので、田や畑の緑が盛りだったことははっきり覚えている。

栃谷の鉱泉（現在「陣馬の湯」となっている所か？）から栃谷尾根に取り付き海拔 600mの尾根に出るのが最初の重労働になった。ここからさらに高度差 200m余りの稜線を上って陣馬山（855m）に到達。

どんな山道を登ったのか、どんな景色が見えたのか、細かなことは、すでに忘却のかなたに消え去ってしまった。ひとつつながりの出来事としての記憶はないが、断片的に色々な情景が蘇ってくる。

北条氏照の居城である滝山城へ攻め入らんとする甲州の武田軍団が陣を張ったことから「陣張山（じんばりやま）」といわれていたが、これが転じて「陣場山」となり、「陣馬山」と変わってきたらしい。

国土地理院の地形図では「陣馬山（陣場山）」と表記されており、日本山名事典（三省堂版）でも「陣馬山（陣場山）：じんばさん」となっている。

陣馬山からは海拔 700m前後のなだらかな起伏を歩くので景色を楽しむことができた。明王峠（739m：みょうおうとうげ）・堂所山（727m：どうどころやま）を抜けて景信山（731m）まで来ると太陽の光に反射する底沢側の山の斜面が美しかった。

景信山からは南へ一気の下りで 548mの小仏峠へ。

この下を列車が走っているのかと思うと、自分が高いところに居ることが実感として湧いてきた。

小仏峠から東へ下って南浅川の谷に下りると海拔 300m 弱。さらにゆっくりと高度を下げながら高尾山の北側の谷を通る甲州街道旧道を高尾駅（海拔 167m）まで。初心者には長いフィニッシュだったので、駅舎に入った途端に力が抜けた。三月に駅名を変えて「浅川」から「高尾」になったばかりで、駅舎の看板が新しかった。

以上

平安時代に京都から来た修行僧が、深沢山（445m）の山頂で一夜を過ごすことになった。その夜、8人の子を連れた牛頭王が現れ、この地に留まれと言う。修行僧は深沢山を天王峰とし、周囲の八つの峰を八王峰とし



て祭祀し八王子権現という寺を建てた。これが八王子という地名の由来となっている。

後の世で北条氏照が、深沢山に八王子城を築いた。

この八つの峰とは、

今熊山（505m）・刈寄山（647m）・市道山（795m）
醍醐丸（867m）・陣馬山（855m）・景信山（727m）
城山（670m）・高尾山（599m）

（修正・更新：2023年9月）